

電子くじは、開札において落札者の決定にあたり、同価の入札をした者が2人以上あるときに、電子入札システムで自動的に落札者(事後審査型条件付一般競争入札においては落札候補者)を決定するために使用します。

電子くじには、「入札書が電子入札システムに到達した時刻」と、「くじ番号」が用いられるため、入札書の提出時には、「入札金額」とともに「くじ番号」(入札参加者が任意に選定する3桁の数字)の入力が必要です。

1 「電子くじ」の計算方法について ……電子入札システムの「電子くじ」の方式について説明します。

項番	くじの方式
1	入札書提出時に、くじ番号(入札参加者が任意に選定する3桁の数字) (a) の入力を行います。
2	入札書が電子入札システムに到着した時刻をもとに、GMT(グリニッジ標準時)1970年1月1日0時0分0秒からの延べ秒数を計算し、下3桁の数値 (b) を取り出します。 入札書到達時刻は、入札書提出時に発行される「入札書送信確認票」や「入札書受付確認通知書」で、確認することができます。
3	入札参加者ごとに、項番1のくじ番号 (a) に項番2の数値 (b) を足し合わせ、計算結果の下3桁の数値 (c) を求めます。
4	電子くじ対象者の電子入札書がシステムに到着した時刻順に、0, 1, 2…と番号を割り当てます。
5	電子くじ対象者の項番3の数値 (c) をすべて足し合わせ、当該電子くじ対象者数で割り、余りの数値を求めます。
6	項番4で電子くじ対象者に割り当てられた番号と、項番5で計算した余りの数値が一致した入札参加者が、落札者(落札候補者)となります。

※ 天体観測を元に定められた GMT(グリニッジ標準時)と JST(日本標準時:兵庫県明石市を通る東経 135 度上の時刻)とは 9時間の差があります。

2 「電子くじ」の計算例について ……くじ対象者が3者の場合の「電子くじ」の計算例になります。

項番	くじ対象者	A社	B社	C社
1	くじ番号 (a)	418	020	861
2	1970年1月1日0時0分0秒(GMT:グリニッジ標準時)から電子入札書到達時刻までの延べ秒数(下3桁を使用) (b)	[入札書到達時刻] 2021/7/8 15時20分50秒 [1970/1/1 0:0:0からの延べ秒数] 1625725250秒 下3桁 250	[入札書到達時刻] 2021/7/7 10時10分35秒 [1970/1/1 0:0:0からの延べ秒数] 1625620235秒 下3桁 235	[入札書到達時刻] 2021/7/7 14時25分10秒 [1970/1/1 0:0:0からの延べ秒数] 1625635510秒 下3桁 510
3	(a)+(b)の下3桁使用 (c)	(418+250) 668	(020+235) 255	(861+510)=1371 下3桁 371
4	くじ対象者の入札書到着順番(0から付番)	2	0	1
5	(c)の合計÷入札参加者数	(668+255+371) ÷ 3 = 431 余り "1"		
6	落札者(落札候補者)	C社 (到着順番 "1" = 余り "1")		

※ 試算される場合、電卓では項番5の“余り”ではなく小数点が表示されますので、手計算されると理解し易くなります。